

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 7-1

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	放課後児童健全育成事業			
評価者	担当課・係名	児童センター 児童センター係		
	課長等	職名	館長	作成者
		氏名	牧野京子	氏名
				職名
				氏名
事業の概要	保護者が就労等により、昼間留守家庭となる主に小学校低学年を対象に、放課後の家庭に代わる生活の場・遊びの場を提供し健全育成を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単位施策	1	「子育て」支援の強化	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	次世代育成支援行動計画		
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	2,571千円	3,140千円	3,220千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	353千円	98千円	1,712千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	保護者が労働等により、昼間留守家庭となる児童(小学生)	指標/目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	留守家庭児童の安全な居場所づくり		開設日数、利用者数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	学校終了後の安全確保と異年齢との関わりを通して自主性・社会性を培う		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	児童の健康管理と安全を確保することで保護者が安心して就労できる。		①児童クラブ年間開設日数	目標年度	19年度
			目標値	308日	
			実績値	306日	
			達成度	99.4%	
		②児童クラブ年間利用者数	目標年度	19年度	
			目標値	10,000人	
			実績値	10,873人	
			達成度	108.7%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
① 開設日・時間	開設日 月曜日～土曜日・祝日として対応 時間 平日 授業終了後～17:30 休校日(祝日・土曜日)8:00～17:30 お弁当対応				
② 安全確保	送迎・出欠確認等について保護者並びに小学校との連絡徹底を図る。				
③異年齢交流	異年齢との生活や遊びを通して社会性を学ぶ。				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	子どもたちの安全対策が心配される中、保護者が安心して就労でき、児童の安全確保と健全育成を図るために必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	保護者が安心して就労ができ、子どもの安全対策が図れる。
有効／概ね有効／課題あり		

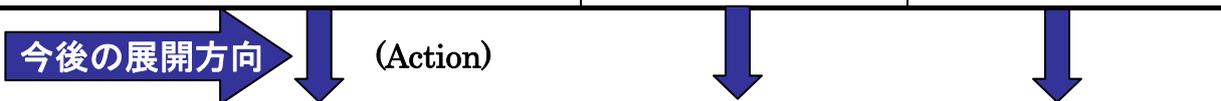
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	児童センターで実施することにより、無駄なく事業実施が可能である。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
共働き家庭増加に伴い、保護者が安心して就労ができ、児童の安全な居場所づくりを図る上でも計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持	継続/現状維持	
児童の安全対策が心配される中、今後もますます必要とされる事業である。内容の充実を図り、安心できる居場所づくりに努める。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 7-2

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	子育て支援センター事業			
評価者	担当課・係名	児童センター 児童センター係		
	課長等	職名	館長	作成者
		氏名	牧野京子	氏名
				職名
				氏名
事業の概要	地域全体で子育てを支援する基盤を形成し、育児の悩みを抱える母親への相談指導や子育てサークルへの支援、遊びを通しての親子の楽しい交流の場など地域の子育て支援を進める。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■ 掲載事業 □ 非掲載事業		
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単 位 施 策	2	「子育て」支援の強化	
	事務事業の種類	■ 自治事務 □ 法定受託事務		
	その他計画・根拠等	次世代育成支援行動計画		
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	3,519千円	3,593千円	3,675千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	0千円	0千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	子育て家庭	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	子育てに不安やとまどいを感じる母親が増加している。		利用者数、あそびの広場開設数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	地域全体で子育てを支援する基盤を形成し、育児支援を図る。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	育児の喜びや楽しさを知り、安心して子育てができる。		① 年間利用者数	目標年度	19年度
			目標値	3,800人	
			実績値	3,682人	
			達成度	96.9%	
			② あそびの広場開設数	目標年度	19年度
				目標値	110回
				実績値	109回
				達成度	99.1%
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①あそびの広場	仲良し親子教室を実施して年齢に応じた遊びの指導や仲間づくりの提供を行った。				
②ミニ講演会等の実施	小児科医師による子育て講演会等を開催し情報の提供を行った。				
③特別保育事業等の積極的実施・普及促進の努力	関係機関との事業協力体制を図り、遊びの紹介等を行った。				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	少子化が進む中、安心して子どもを生み、育てることができるための子育て支援が必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	子育て支援センターを利用する親子が増え、子育ての情報交換や仲間づくりの貴重な場となっている。
有効／概ね有効／課題あり		

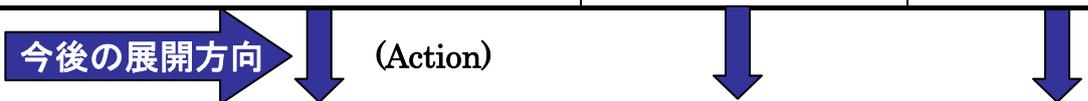
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	児童センターで実施することにより、玩具等の共用ができ無駄なく事業実施を進めることができる。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
子育て支援センターは身近な子育て相談ができ、不安や悩みのある母親同士の情報交換、仲間づくりの場として重要であり、計画どおり進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
社会状況の変化に伴い、家庭や地域における子育て機能が低下してきている中、育児不安や子育ての負担感が増大してきている。母親たちが気軽に利用できる場となるよう子育て支援を継続していく。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 7-3

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	児童センター活動事業			
評価者	担当課・係名	児童センター 児童センター係		
	課長等	職名	館長	作成者
		氏名	牧野京子	氏名
				職名
				氏名
事業の概要	地域の子ども達の安全な遊び場として異年齢との関わりを通して社会性・自主性・創造性の向上を目指し、健全育成を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単位施策	1	「子育て」支援の強化	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	777千円	911千円	1,200千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	777千円	505千円	800千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	全ての児童	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	地域の安全な遊び場の提供		利用者数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	健全な遊びを提供し、健康増進と豊かな心を養う。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	児童の魅力ある居場所となり健全育成が図られる		① 年間施設利用者数	目標年度	19年度
			目標値	30,000人	
			実績値	30,695人	
			達成度	102.3%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①行事体験活動	多種多様な行事を通して、幅広い世代交流を深め、体験活動を行った。				
②体力増進活動	数多くのスポーツ指導を行い、体力増進を図る。				
③児童ふれあい交流促進事業	地域への遊びの出前、赤ちゃんふれあい体験などを実施し、子どもたちの体験活動の幅を広げる。				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	子どもたちを取り巻く環境が変化中、遊びの拠点となる地域の安全な居場所が必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	センター利用者や事業への参加者が増加しており、安全な居場所として有効であると判断する。
有効／概ね有効／課題あり		

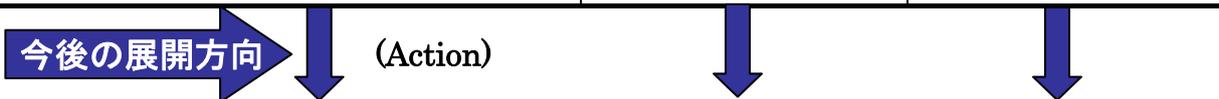
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	日々の活動や行事等で子どもたちと一緒に工夫をこらした手作りのものを取り入れたところ、とても喜ばれコスト削減にもつながった。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
地域の子ども達の遊びの拠点として交流の場になっており重要な役割を果たしている。よって計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
地域の子ども達に多種多様な遊びや体験を提供し、他者に対する関心を高め、仲間づくりを促進し、子どもたちの健全育成や子育て支援の環境作りを行う。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項